

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470500675		
法人名	有限会社 介護センター田中		
事業所名	グループホーム渚園		
所在地	津市柳山津興382-4		
自己評価作成日	平成25年9月20日	評価結果市町提出日	平成25年11月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JivogyoCd=2470500675-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JivogyoCd=2470500675-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 25 年 10 月 15 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

洗濯や掃除、料理作りをしたりするなど、各自が役割を持つことで、自信を取り戻し、日々の生活を張りのあるまのにさせていただけるよう、サポートしたいと考えている。  
ひとりひとりのペースや考えを大切に、個人個人に合った方法で、その方らしく生きられるよう、援助をすることを心がけている。  
食事はすべて園内で手作りをし、季節感を大切にしたり、温かいものは温かく、冷たいものは冷たく食べていただけるようにしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日々の散歩コースにもなっている津ヨットハーバーのすぐ近くに位置し、ゆったりとした造りの建物は懐かしい家並や大型ストア・飲食店に隣接し、高齢者の日々の生活の場としても恵まれた環境に立地している。高齢者福祉に篤い想いで取り組まれ、三重県地域密着型サービス協議会会長でもある管理者のもと理念、地域の中で『自分らしく生きる』を全職員が共有し、その人の尊厳を守り、自己決定に基づいた暮らしの支援を行い、利用者一人ひとりに寄り添うケアを実践している。昼食時、自身で御飯を盛り付けながら『此処の御飯は美味しいのよ。毎日の食事が楽しみ!!』と話された笑顔の利用者を見守る職員の眼差しは優しく、家族からも感謝の声が多く届いている。毎年恒例になっている泊旅行は管理者が下見に行くなど心配りも行き届き、利用者・家族・職員の楽しみ事になっている。認知症になっても地域と繋がりが、大切にされていると実感できるように、サブ理念でもある『風とともに生きる(自然に自分らしく)』を実践している、穏やかで優しい風が流れている事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で「自分らしく暮らす」を理念とする。「風と共に生きる」をサブタイトルとして、利用者主体を心がけ、実践している。	利用者には地域の一員としての役割を担いながら、日々楽しく過ごしていただきたいと、毎日の申し送りミーティング時(9時30分～)などに理念を振り返り、確認し、職員間の意見統一を図るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や老人会、近隣の保育園の協力を得て、行事に参加したり、地域の中学生の職場体験等で触れ合いを行っている。また、地域へ散歩に行ったり、地域の方が色々なボランティアに来てくれている。	自治会に加入し、盆踊りや地域のイベントに利用者が参加しており、回覧板もまわってくる。また、日常的に行っている散歩や買い物時に地域の方々と挨拶を交わすなど、近隣の人々との交流の機会はとても多くある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に頼まれて、認知症についての講演をしている。また、相談も随時受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会役員、家族会代表、津市職員に来ていただき、運営推進会議をおおむね2ヶ月に1回開催している。会議での意見は職員へ伝え、考え、サービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回(年6回)開催している。管理者が会長である三重県地域密着型サービス協議会が、鳥羽で行う認知症フォーラムの説明や地震災害時の避難場所についての報告を行い、意見交換をし易いように工夫している。(議事録も毎回きちんと作成されている。)	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、事業所の取り組みを理解してもらっている。また、総括長が市の委員となり、意見を市に発信している。	管理者は津市介護保険事業等検討委員会・津市地域福祉計画推進委員会の委員である。津市の担当者との交流や情報交換の機会は多くあり、常に協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束をしてはいけない事をよく理解しており、日頃から世間での出来事についても討論している。日中、玄関の錠をかけない。	管理者および全ての職員が身体拘束・言葉の拘束の内容とその弊害を認識し、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関はいつもオープンにして利用者・家族がいつでも自由に入出入り出来る様に支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、身体拘束をしてはいけない事をよく理解しており、ミーティング時にも話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、総括長は成年後見制度についての研修を受け、入居者の権利擁護を守っている。又、地域の相談にも活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定等の際は、利用者や家族が理解、納得するまで十分な説明を行い、その後も気軽に質問ができる体制をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、電話対応、メール対応等で、いつでも家族が意見、要望を出せる体制を整えて、意向や希望を把握し、実行できるよう努めている。	毎年、利用者と家族・職員で1泊旅行に行っている。(本年は明治村と下呂温泉に行く予定) 渚園たよりを送付し、ホームを理解してもらいながら、何時でも意見を言い易い雰囲気づくりに努めている。そこから出た意見や要望はミーティングで話し合い運営やケアに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時だけでなく、実践の場でも常に意見や提案を聞いたり、話し合ったりして、運営に反映させている。	管理者・主任・職員とのコミュニケーションはととも良好で、朝の申し送り時・月1回のミーティング時(全職員何らかの意見を言うようにしている)・日々のケアの現場や食事会などで出た意見や要望は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう、職場環境、条件等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修の実施や、内外の研修を受ける機会を作り、働きながら各自が向上していけるよう、進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県地域密着型サービス協議会に加盟し、研修や勉強会に参加するなどして、同業者と交流、意見を取り交わし、サービスの質を向上させる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人に来園していただき、思いや要望、困っていること、不安なことなどを聞き、安心を確保できるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族に来園していただき、今まで頑張ってきたこと、困っていること、不安、要望等を聞き、信頼関係ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話をよく聞き、最適な支援を見極め、よりよいサービス利用ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人に敬意をもって接し、周りもよく観察して、暮らしを共にするもの同士の良好な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人にとって家族がかけがえのない存在だということをよく理解しており、家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの馴染みの関係を継続させ、関係が途切れないように、面会に来てもらいやすい環境を提供している。また、馴染みの美容院、かかりつけ医へ行くなどの支援を実施している。	馴染みの美容室に出かけたり、利用者の自宅に実っている蜜柑や柿などの季節の果物の収穫を支援し、家族との関係が途切れないように、場面づくりに努めている。携帯電話でメールをされる利用者もいる。家族からは『ホームへ何時でも訪問し易い』と感謝の言葉が多くある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を常日頃からよく観察し、孤立する人がでないように、配慮している。利用者同士の大人の関係を大切に、もめごとがあっても、職員が介入しすぎず修復に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族に写真を送ったり、手紙をもらったりして、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて相談や支援に努めている。亡くなられても、運営推進会議に出させていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃から、本人や家族から思いや要望を聞き、意向の把握に努めている。また、会話が困難な場合もスキンシップや声かけで本人の表情を見ながら、本人の思いを確かめている。	センター方式のシートも使用しているが、夜間に眠れず話を聞いてもらいたい方とゆっくり話をしたり、話が困難な方からは表情や雰囲気から利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、親戚、友人等、馴染みの方から話を聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりによく目を配り、日々変わる体調、心身状況を把握するように努め、職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係者の意見を聞き、ケアプランを作成している。また、毎月の園内ミーティング時で、評価、見直しを行っている。	毎日のミーティング時や月1回の定例会で、利用者の日々の状況を職員間で把握確認し、家族からも面会時や家族会出席時などに意見や要望を出してもらっている。モニタリングは毎月行い、介護計画は3ヶ月に1回見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践、結果、気づいたことなどを個別に記録し、職員間で情報を共有して、ケアや見直しにつなげている。特に重要なことは特記事項に記している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望を聞き、その時々、個々の状況に合わせて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの人と会ったり、美容室へ出かけたりにして、本人が自ら心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しめるよう、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどが訪問医の往診を受けているが、馴染みの医師、病院などにかかっている人は、一緒に受診している。	在宅時からのかかりつけ医を利用者・家族の希望で継続されている方は、現在、家族同行で受診される方1名と管理者が同行される方2名である。2名の協力医から月2回づつ往診をしてもらい、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から本人の体調を把握し、かかりつけ医、看護師に報告、相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院に本人の情報を提供し、病院関係者と情報交換や、相談をしている。また、そうした場合に備えて、日頃から病院関係者との良好な関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明で、重度化した場合の支援について本人、家族と話し合いをしている。実際に起こった場合は、変化があるごとに家族、職員間で納得するまで十分に話し合いをし、家族と共に見取りを行っている。	利用者・家族の希望があれば、終末期に向けて、本人らしく過ごしていただく方針である。状況変化に応じて現在の事業所で、出来ること出来ないことを伝えて、段階的に合意をとりながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急隊員から応急手当を習い、職員間でも緊急時に対して、話し合い、実践力を身につけるよう、心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災避難訓練を実施しており、方法や避難経路についてなど、常日頃から職員間で話し合い、効率よく安全に避難できるように考えている。また、地域との協力体制も築いている。	防災訓練は年2回実施しているが、三重県地域密着型サービス協議会が毎年行っている一斉訓練は今年はその行事と重なり、実施できなかった。津波災害時には近隣の百五銀行事務センターと隣接のマンションに避難場所としてお願いしている。(ライフジャケットも設置してある。)	いつ、どの時間帯に起こるかわからない、災害に備えて、利用者・職員全員が安全に避難できるように具体的な避難誘導策を決め、昼夜を問わず避難訓練が行われることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	実践の場において、言葉遣いや羞恥心等に注意し、人格やプライバシーを損ねないようにしている。	利用者一人ひとりの人格やプライバシーを尊重することをケアの基本としている。名前の呼び方・排泄時・入浴時・居室に入る時など、利用者の気持ちに添うように優しく支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から本人とコミュニケーションをとり、信頼関係を築くことによって、本人が気軽に思いや希望を表したり、自己決定ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしている。希望に添えない場合は、必ず説明をし、理解してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるようにお話を聞いたり、家族と話をしたりして、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の希望をメニューに反映している。	調理の音や匂いで五感を刺激し、旬の食材や新鮮なものをとり入れて食事が楽しみなものになるように工夫している。職員も同じテーブルで一緒に食事をしながら楽しい会話に花が咲き、和やかな食事風景であった。利用者が自身のお茶碗に好きな量(当日は栗ごはん)を盛り付け、食欲を高めたり食事への関心を引き出す場面づくりの工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の少ない方には、食事を工夫して食べてもらっている。水分摂取が少ない人は記録し、確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の力に応じて、自発的に口腔ケアをしていただけるよう努めている。難しい人には手助けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時に排泄のパターンを把握することで、「排泄はトイレで」を基本に、できる限りおむつ、紙パンツを使用しない介護を目指し、支援をしている。	日々の寄り添うケアから尿意のサインや一人ひとりの排泄パターンを把握して、自立排泄に向けた支援を行っている。夜間もトイレ誘導を行っている。(毎年行っている一泊旅行では失禁される方がいない実績もある。)	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩を日課にしたり、ヨガを行うことによって、便秘の解消に努めている。それでも解消できない場合は、主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日はおおむね決まっているが、毎日でも入浴できるシステムとなっている。順番、タイミングなどは、本人が納得のいくように工夫し、個々にそった支援をしている。	入浴はローテーションを組み、不公平感が無いように工夫して入浴が楽しめるように支援している。利用者一人ひとりのこだわりにもきちんと対応し、柚子湯や菖蒲湯・・・など工夫し、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣、体力、日々の状況をよく把握し、昼寝も取り入れたり、日中活動することでよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬を把握し、服薬支援をしている。また、かかりつけの薬局とも情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯、配膳など一人ひとりに役割をもってもらうことによって、張り合いのある日々を過ごしてもらえるように支援している。また、個々の力に合わせたレクリエーション等の時間も大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は近くの海岸まで散歩をしたり、個々の希望を聞いて、買い物に出かけたりしている。年1回、入居者と家族、職員で一泊旅行に出かけている。	毎年、家族と一緒に1泊旅行(24年度は鳥羽・25年度は11月に明治村と下呂温泉に行く予定である)は利用者の希望を聞き実施している。また天気の良い日には、利用者一人ひとりの希望に添って、ヨットハーバーや交通公園までの散歩を日常的に楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、家族と相談しながら、お金を所持したり使えるように支援している。人によってはレジでお金を払ってもらったりもする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話や手紙のやり取りができる。電話が自分でかけられる人には自分でかけてもらい、自分でかけられない人は、職員がかけて、手渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2ユニット間を自由に行き来でき、近所付きあいを構築している。毎朝一緒に掃除をし、清潔を保っている。季節の花を生けたり、工作をしたりして、季節感を取り入れ、居心地よく過ごせるように工夫している。	玄関横に素敵な量のスペースもある共用空間には季節の花が活けて有り、季節感や生活感をとり入れて、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士で、ゆったりとした時間を過ごせる居場所づくりの工夫が随所にみられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や玄関にテーブルや椅子を置き、居場所を作っている。テレビの前にはソファを置き、気の合った入居者同士で、思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、馴染みの調度品や家族の写真等で部屋を飾り、居心地良く過ごせる居室づくりに努めている。夏には部屋の入口にのれんをかけ、季節感を演出するとともに、プライバシーを守っている。	共用空間と同様に季節の生花が活けられた各居室は、とても清潔である。大切な方からのプレゼントのぬいぐるみ・立派な鏡台・ご主人の歌声が入ったカセットテープ・懐かしい筆筒や位牌が置かれ、本人の意向を確認しながら、居心地良く過ごせるように取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」を把握し、各部屋に名前、目印、写真をつけるなどして、自立した生活が送れるように工夫している。		